

高等学校

教科【数学】

単元【数学Ⅱ：式と証明】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

与えられた課題に対して、生徒同士で解法をプレゼンテーションすることにより、学びの深化を図る。

ICT活用のポイント

校内のWi-Fiと会議用アプリZoomを使用し、ソーシャルディスタンスを確保しつつ双方向での通信が可能となる。

使用する
ICT機器

iPad

使用するアプリ・
クラウドサービス等

Zoom

クラウド
の活用☒教材の配布・回収等
☐生徒の学習状況の把握☒資料等の共有
☐その他（ ）本時の
ねらい

式と証明に関する課題に関して、多面的な見方・考え方を養うことができる。

主な学習活動
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

○始業前に活動
場所に移動し
Zoomを起動
する。○本時の目標を
確認する。

一斉

校内の4つの教室に、各班に分かれて、班ごとにICT機器の準備をする。

※iPadのWi-Fi接続・Zoomへのログイン完了・映像やマイクの動作確認

ICT機器



指針2

本時の目標を確認し、生徒同士による解法のプレゼンは、「簡潔」かつ「論理的」に行い、積極的に質問するよう指示する。



展開

○各班の代表者が解法をプレゼンテーションする。

ここで評価

協働

Wi-Fiの接続帯域が細い場合、画質を落として受信したり、画像が途切れて内容を見落とした際に再度質問できる時間を設けたりするなどの留意事項を確認する。

各班の代表者が、課題に対する解法を各教室の黒板及びホワイトボードを使い、プレゼンテーションする。また、撮影係や記録係などの役割を決めておく。

(例) 撮影係：発表者をiPadで撮影する。

記録係：他班が発表した解法の「参考になった点」「疑問に思った点」などをまとめ、質疑応答の材料にする。

指針3

指針6

【思】

・自己の解答について、他者の視点に立って考察を行うなど、多面的な見方・考え方を働かせて、説明することができる。

終末

○本時の振り返り

個別

Googleフォームを活用して、授業の振り返りを行う。(教師が自動集計結果を確認し、次回の授業において、情報共有を行う。)

クラウド



※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度